

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 28-007  
 担当 竹内  
 内線等 23-7341

PDCA	事務事業名	生涯学習推進事業	部課等名	教育部生涯学習課 生涯学習担当			
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第5章 育ち合い共生を進めるまち					
		節： 第2節 生涯学習の推進					
		基本施策： 1. 生涯学習					
		単位施策： (2) 生涯学習支援のしくみづくり					
根拠法令等	個別施策： ②学んだことを生かせる場の提供						
対象・目的	第2次半田市生涯学習推進計画（はんだ学びプラン）						
目的を達成するための手段・活動内容	「ひとつづくり」「まちづくり」につながる活動が広がるよう、市民一人ひとりが、いつでも、どこでも、だれもが楽しんで学習に取り組むことができる環境の整備やその学習活動の支援を推進する。 ・市民が学習成果を生かし、市民同士で学び教え合う機会を設けるため、「市民企画講座」を継続的に開催する。 ・社会福祉協議会やNPOなどと協力し、市民企画の講座開催を支援し、充実させる。 ・ゲストティーチャー（市民ボランティア講師）研修会など、ゲストティーチャーのフォローアップを行い、ゲストティーチャーの資質向上を図ることで活躍の場を増やしていく。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①講座受講者数	4,348	4,131	2,770	人	
		②講座開催回数	294	287	161	回	
		事業費	807	809	400	千円	
		人件費	5,035	3,726	3,459	千円	
		総事業費	5,842	4,535	3,859	千円	
		活動単位当たりのコスト	30年度	元年度	R2年度	単位	
	①講座参加者1人当りの事業コスト	1,343	1,097	1,393	円/人		
	成果	成果指標	H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①市民企画講座数	実績値	61	60	24	件
			目標値	95	95	50	
		②ゲストティチャー登録件数	実績値	190	183	155	件
			目標値	190	190	190	
		実績値					
目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地		ない
	事業の評価・課題	C					
		学びと出会う場所を提供すると同時にゲストティーチャーの活躍の場を増やすことを目的としたまなびとゼミについては、新型コロナウイルスの影響もあり、企画した講座が一部中止となったが、募集人数を半数にするなど感染症対策を施して実施することができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響や高齢のため、ゲストティーチャーへの登録を辞退する件数が増え制度の今後のあり方に課題は残したが、新規登録する方も8名いた。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進				
在宅でも受講可能な生涯学習講座や、親子向け講座、若者を対象とした講座の開設など、市民のニーズにあった学びの場の提供を推進していく。また、ゲストティーチャー制度の活用促進を図るため、まなびとゼミに限らず、ゲストティーチャーの魅力を十分に発揮できる企画を設定し、次世代につながっていく。							
令和3年度の目標		成果指標	目標値	単位			
		①市民企画講座数	50	件			
②ゲストティチャー登録件数	190	件					